

# I'mPOSSIBLE

Engaging young people with the Paralympic Movement

## 2-5

# [ガイドランナーを体験しよう!]

教師用 授業ガイド

(小学生版)

- 授業の展開にそって、【指導・声かけ例】【+アルファ情報】を掲載しています。
- 【+アルファ情報】は、すべて伝えなければならない情報ではありません。興味・関心を引き出すために、クラスのそれまでの学習経験なども踏まえてご活用ください。
- 一方的に教師が話すのではなく、児童の既習事項などと絡め、児童に考えさせるような展開にしましょう。

(教材の内容は、2020年4月1日現在の情報をもとにしています。)



I'mPOSSIBLE  
2-5 ガイドランナーを体験しよう！

テーマ2 授業5  
たいけん  
ガイドランナーを体験しよう！

国際パラリンピック委員会公認教材 1

I'mPOSSIBLE  
2-5 ガイドランナーを体験しよう！

今日のめあて・やること

- ①ガイドランナーをたいけん体験してみよう！
- ②ガイドランナーが注意することはなんだろう？

国際パラリンピック委員会公認教材 2

【指導・声かけ例】

- ・準備運動は始まる前に行ってもよい。
- ・ガイドランナーという言葉聞いたことがあるか、どんなことをする人かを想像させるなどして、ガイドランナーについて確認することから始めてもよい。
- ・陸上競技の走競技のT11は全盲のクラスで、ガイドランナーの伴走が義務付けられている。ガイドランナーの有無が選べるクラス、ガイドランナーなしのクラスもある。
- ・目の障害には、真っ暗、光だけ感じる、著しく視力が低い、視野が狭い（1センチくらいの穴から覗いた程度しか見えない）などがある。
  - 「ガイド＝案内する人 ランナー＝走る人 つまり案内しながら走る人だね。」
  - 「どういう人を案内するのか？ 目の不自由な人」など

I'mPOSSIBLE  
2-5 ガイドランナーを体験しよう！

ガイドランナー



国際パラリンピック委員会公認教材 3

【指導・声かけ例】

- ・ここでの説明は、写真からビブス（ゼッケン）に着目させて、ガイドランナーが誰かを確認させる程度の押さえ方に留める。

I'mPOSSIBLE  
2-5 ガイドランナーを体験しよう！

視覚に障害のある人

- たよりになるのは音（声）
- 競技するとき、観戦するときのマナーは…

国際パラリンピック委員会公認教材 4

【指導・声かけ例】

- ・ゴールボールやブラインドウォークなどの体験をしていたら、それを思い起こさせる。
- ・ブラインドのスポーツを挙げるなどして、興味を持たせてもよい。（5人制サッカー、ゴールボール、柔道）
- ・教師の一方的な説明にならないように、できるだけ気づかせたり想像させたりする。
- ・静かにして安全に注意すること、床にめがねや衣類を置いたままにしないように、気を付けるよう伝える。



**ガイドランナー**・**具体的に指示する。**

あいまいな声かけはしない

- 「10メートル先 45度右カーブ！」
- 「左90度！」
- × 「あっち！ むこうの方！」

・**タイミングに注意する。**

- 「ここまでで半分」
- 「もうすぐ急な上り坂…はい、ここから！」
- × 「あっ！右」「今、曲がって！」

## —【指導・声かけ例】—

- ・「言葉だけで、動作を伝えることができるかな？」を行った後に、感想を聞き、ガイドランナーがすべきことを引き出す。
- ・スライド5・6は、はじめから示すのではなく、実際に動きをした子に感想を聞いたり、見ていた子に様子を聞いたりした後示す。
  - 「まずは目をかくして走った人、どんな気持ちだった？」
  - 「ガイドランナーはどうだった？」
  - 「見ていて気づいたことはあったかな？」
- ・スライド3の写真に戻り、ガイドランナーの役割を簡単に説明する。
- ・息が合っていること、ロープでつながっていることに気づかせたい。
- ・ガイドランナーは、アスリートが最高のパフォーマンス（記録や順位）をできるようにサポートする人。視覚障害のランナーに合わせて走る。
- ・ガイドランナーはロープを引っ張ったり、選手を押ししたりしてはいけない。選手との距離が遠いと、安全にガイドをすることが難しくなるため、ロープの長さは50cmとなっている。
- ・基本は併走。前に出たり後ろに下がったりしてもよいが、ゴールは必ず視覚障害のランナーが先に入らなくてはならない。
- ・マラソンのときなどは、地面にでこぼこがないかなども見ている。遠くで車の音などがすると不安になるので、「車が来ているが大丈夫です」なども伝えているそう。

〈選手とガイドランナーを結ぶロープについて〉  
国際大会など公式な競技会では、規定に沿った伸縮性のない両端に輪がついた形状のものを使用する。

**ガイドランナー【声かけの例】**

- ・ ゴーゴー
- ・ 5、4、3、2、1ストップ
- ・ あと〇歩くらい
- ・ 90度右に向く 左ななめ 45度
- ・ この先に△△があるよ！
- ・ その調子 それでいいよ！

## —【指導・声かけ例】—

- ・ 声かけのポイントとして、「詳細に伝えるためのもの」「不安解消のためのもの」があることに触れたい。
- ・ クロックポジションや角度は難しいので、
  - 「自分の行動があっているか心配になるので、『その調子』『それでいいよ』などと言ってあげよう。」
  - 「先生は、まっすぐ歩くとき、まっすぐまっすぐと言われると安心したよ。」



I'mPOSSIBLE 2-5 ガイドランナーを体験しよう

**体験**

- ① アイマスクをした人をガイドする。
  - ・ロープを使う。
  - ・コーンをよける。
- ② アイマスクをした人をガイドして、ロープを使って走る。

国際パラリンピック委員会公認教材 7

【指導・声かけ例】

- ・このスライドは使用しなくてもよい。
- ・映像を見せるタイミングは、歩く体験をした後、走る体験をする前が望ましい。
- ・選手とガイドランナーの動きがうまく合っている（息が合っている）様子を見ることで、ガイドランナーが声かけの他にもう1つ大切にしている「(相手に) 合わせる」を意識できるとよい。

I'mPOSSIBLE 2-5 ガイドランナーを体験しよう

**まとめ**

- 感想を書こう
  - ・ガイドをして
  - ・ガイドをされて

国際パラリンピック委員会公認教材 8

【指導・声かけ例】

- ・時間がなくワークシートに記入させるのが難しい場合は、その場で2～3人に発表させるとよい。
- ・最後に、ガイドランナーが大切にしていることは、「声かけ」や「合わせる」こと、お互いを信じ合い、相当量の練習をして、パラリンピックの舞台に臨んでいることに触れ、パラリンピックを応援する気持ちを膨らませる。
- ・ガイドランナーがいないと走れない人は、走りに行きたい時に走れないもどかしさがあるという。ガイドランナーとして、支える役目をする人が増えることが期待されているということを伝えてもよい。

